2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	スポーツ科学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	応急処置法	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	4FATルーム
担 当 教 員	井上 佳子	実務経験とその関連資格	塩野義製薬 女子ソフトボール部トレーナー(2000年～2002年)15人制 女子ラグビー日本代表トレーナー(2013年～) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー, 保健体育第1種教員免許, 日本赤十字社救急法指導員、日本ライフセービング協会CPRインストラクター		

《授業科目における学習内容》

1. 応急処置の基本的知識 2. スポーツ現場における救急処置 3. 外傷時の救急処置 4. 皮膚などに傷のある怪我の処置 5. 特殊な外傷の救急処置 6. 患部の固定法 7. 運搬法 8. 心肺蘇生法(AEDを含む) 9. 頭頚部・脊椎外傷時の救急処置 10. 内科的疾患の救急処置(熱中症、過喚起症候群など) 11. その他の内科的疾患、ショック状態 12. 現場における救急体制 13. まとめ 14. ケーススタディー(実技テスト) 15. ケーススタディー(実技テスト)

《成績評価の方法と基準》

1:定期試験:70%
2:平常点:10%
3:出席点:20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

AT教本AT教本⑧救急処置

《授業外における学習方法》

スポーツ現場における応急処置(RICE処置)の部位別の固定法は繰り返し自宅でも復習練習する

《履修に当たっての留意点》

現場に出て行く上で基礎的なトレーナー活動に必要な技術、知識を正しく学んでほしいと思います

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・救急処置の重要性や基本時候が理解できるようになる	AT教本	事前に学習範囲の教科書に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本留意点、BLS、CPRを中心に実施する		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	・事故発生時の一連の観察(評価)、判断、処置の手順が理解できるようになる・直ちに処置が必要であるような緊急を要する状態か田舎を評価・判断できるようになる	AT教本 バンテージ 氷嚢	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	事故時の評価手順(フローチャート)、緊急を要するか否かの評価、事故時の現場における傷害の評価、HOPSS、RICE処置		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	・捻挫、打撲、肉離れのような皮膚に傷のないケガ(挫傷)における適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになること	AT教本 バンテージ 氷嚢	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	皮膚に傷のない怪我の処置、炎症の5徴候、RICE処置の実際、アイスパックの作り方、二次的低酸素状態の説明		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	・捻挫、打撲、肉離れのような皮膚に傷のないケガ(挫傷)における適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになること	AT教本 バンテージ 氷嚢	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	ハムストリングス肉離れ、大腿部打撲、足関節捻挫、アキレス腱断裂、肩関節脱臼の応急処置の実際(バンテージを用いて)、カリフラワーイヤー		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	・切り傷、刺し傷、擦り傷のような皮膚に傷のあるケガ(創傷)における適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる	AT教本 止血帯	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	皮膚に傷のある怪我の処置、創傷の種類、止血法、スキンリューブ、スキンクロージャーの使い方、破傷風感染予防の実際		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・スポーツ活動時によくみられる内科的な疾患の特徴と救急処置の意義と目的が理解出来るようになる	AT教本	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	現場でよくおこる傷害についての救急処置（こむらがえり、肉離れ、筋挫傷、熱傷、日焼け、凍傷、その他）		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	患部の安静および保護を目的とした各種固定法の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる	AT教本 三角巾 副子　他	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	各種固定法（三角巾、副子、包帯、テーピングテープ、各種ブレース、ネックロックなど）		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	・患者の安全で効果的な運搬法の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる（器具を用いた方法、人足による運搬、他）	AT教本 スパインボード 頭頚部固定	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	ダッシュボードを用いた運搬法、移動、搬送の仕方（担架、脊柱ボードを含む）		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	BLSの重要性とその具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる・事故発生からの一連の救命処置の内容を熟練し、一定基準以上のCPRの知識と技術を習得できるようになる	AT教本 キューマスク AEDトレーナー	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	AEDを用いた心肺蘇生法、CPRを中止してよい時		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	・頭、頚部外傷発生時における適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる	AT教本 SCAT5	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	頭・頚部外傷時の救急処置法（意識障害、脳震盪の分類）		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・熱中症における適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる	AT教本 氷嚢 うちわ 霧吹きなど	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	熱中症の救急処置、過喚起症候群の救急処置、熱中症の分類、水分補給について		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	・ショックの予防を配慮した処置の重要性と具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる	AT教本	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	ショックの予防と処置、スポーツでよく見られる内科的疾患と救急処置、（過喚起状態、ショックを中心に）		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学科内容のまとめ	AT教本	前回の復習および次回の学習範囲に目を通してくる
		各コマにおける授業予定	教本の不足個所を補うべく、小テストの内容や理解が不足しているところを再度復習し、正しく理解出来るようになる。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	・スポーツ現場における特性を理解した上で、事前に救急体制を配備しておくことの重要性について理解し、それらを計画することで事故発生時に的確な対応ができるようになる	AT教本	実技練習
		各コマにおける授業予定	救急体制の重要性と計画、事故発生時のフローチャート、救急処置用器材に関する知識と準備、現場における救急体制の実際		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	固定、RICE処置、搬送のケーススタディー	AT教本 救急資材	実技のまとめ
		各コマにおける授業予定	実技まとめ		